

西土佐小学校 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和3年11月11日(木) 第5校時

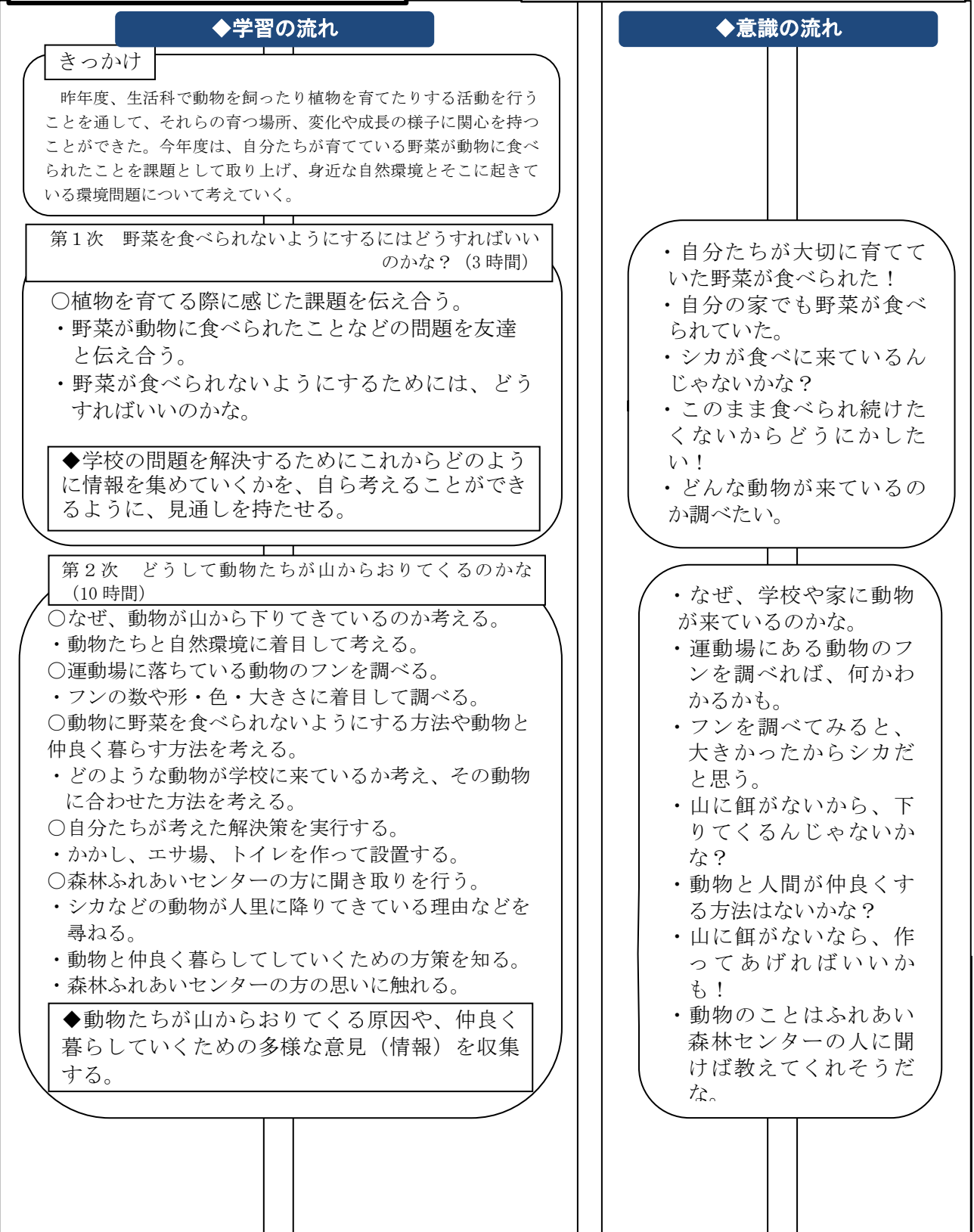
児童数 7名

指導者 岩村 悠雅

1 単元構想図

単元名 「みりよくいっぱい！西土佐小応援隊！」 全45時間 小単元1「守ろう！自分たちの西土佐小学校！」 (22時間)
--

小単元1 「守ろう！自分たちの西土佐小学校！」 (22時間)	→	小単元2 「自分たちの西土佐を守ろう」 (23時間)
-----------------------------------	---	-------------------------------



第3次 どんなことがわかったかな？（4時間）

○森林ふれあいセンターの方から得た情報を整理する。

- ・自分たちの方策や森林ふれあいセンターの方に聞いたことを整理することで、改めて共存していくことの難しさに気付く。

○気付きや考えたことを伝え合う。

- ・気付いた課題などを伝え合い、仲良く暮らしていくために、自分たちにできることを考える。

◆情報を整理することで人間と動物が仲良く暮らしていくことの課題に気付かせ、どのような方策を行えば効果的なのか、どの情報が必要かを考えさせる。

第4次 自分たちにできることを実行しよう！

○自分たちで考えた方法を実行する。

- ・動物と人間が仲良く暮らしていくための方策を実行する。

◆調べたことをもとにして、どのような方策を実行すればよいか考えさせる。

- ・森林ふれあいセンターの方の話から、仲良く暮らしていくことの難しさを知ったよ。
- ・自分たちには何ができるのかな。
- ・エサ場を良くしたり、すみかを作ったりしてあげればいいんじゃないかな。
- ・自分たちが考えた方法を試してみようよ！

- ・調べたことの中から、～の方法をやれば解決できると思うよ！
- ・自分たちがやってきて、よかった所や、直したらよかった所を誰かに教えたいな。

単元でつきたい力

- ・西土佐の自然は、環境問題と保全に関わる人々の工夫や努力によって支えられており、自然と自分たちの生活がつながっていることを理解する。【知識及び技能】
- ・動物と人間の関わり方の中から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自分にできることに気付き、他者の考えを受け入れながら、課題解決に向けて取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

本単元は、自分たちが育てている野菜が動物に食べられたことを課題として取り上げ、身近な自然環境とそこに起きている環境問題について考えたり、まとめたりする活動を通して、山間地域ならではの動物との関わり方や、地域の人々の思いに触れることができると考え、設定した。

児童は1・2年生の生活科において、動物や植物を育てたり、身の回りの動植物と触れ合ったりする活動を行ってきた。その活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持つことができている。動物の生命の大切さや植物を育てたり、収穫したりする喜びを経験している児童にとって、今回育てた野菜が動物に食べられたことは、自分たちが解決したい課題となっている。自分たちの植物を守るために解決策を考えること。そして身近な人や森林ふれあいセンターの方などの多様な意見を聞き、いろいろな気付きを実感することを通して、人間と動物が共存していくためにはどうすればよいか考えたり、動物と関わる地域の人々の思いを感じたりすることで児童自身が地域の一員であるという自覚を持つことができるようになると思われる。また、地域と触れ合いながら調べる学習をすることで、動物以外の身近な自然や施設にも関心を深め、自分たちが感じていなかった地域の特徴や良さにも気付くことができると考えられる。

○児童観

本学級の児童は、総合的な学習の時間を「他の教科で学んだことを活かせる時間」「地域とのつながりを深めることができる時間」などと捉えている。授業の中で疑問を見つけると、見に行きたい、調べたいという気持ちを持って学習することができている。また、普段の生活の中でも昆虫採集をしたり、地域の行事に参加したりする児童が多く、自分の住んでいる地域や自然に愛着を持つことができている。しかし、1学期に実施したアンケートの結果では、「地域の中で自分にできることはないかと考えることがある。」「自分の考えが他の人に伝わるように、理由をつけて説明している。」という項目の回答において肯定的評価が28%と低く、地域を誇りに感じてはいるが、地域のために自分ができることを考え、実行するという心情は、まだ育っていないようである。3年生5月に取り組んだ国語の学習「メモを取りながら話を聞こう」では話し手が伝えたいことを中心に捉えるために、話の組み立てを意識して、必要なことを記録しながら書くことを、ほとんどの児童ができていた。また、その学習で身に付けた力を意識して、社会科「わたしたちのまちと市」で社会科見学に行った際に、メモを取ることができていた。しかし、意識していたものの、実際に活用できるようになるためには、もう少し経験が必要だと考える。今回の総合的な学習の時間で森林ふれあいセンターの方への聞き取りなど、人と関わる活動を多く設け、教科横断的に学習していけるように活動を仕組んでいきたい。

○指導観

昨年度の生活科では、動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持つことができた。そこで今年度は動物の良さや植物を育てる良さだけでなく動物・植物と人間の関わり方について考えさせたい。

本単元では、問題解決のために様々な人に聞き取りをする機会をできるだけ多く設け、調べたり聞いたりすることや、自分の考えが相手に伝わることの楽しさを体験させていきたい。これらの活動を通して、児童は進んで多くの人と関わることの良さを感じ、また地域のために自分たちにもできることがあることを感じさせたい。

小単元1では、自分たちが育てている植物が動物に食べられたことを課題に感じていることから、動物と人間が仲良く暮らしていく方法を考えさせる。その中で、動物を害獣として扱うのではなく、動物たちが学校に下りてくる背景などに着目させ、人間と動物の共存について考えさせたい。まず、自分たちの生活を守るためにこれからどのような情報を集めていくかを、児童自ら考えていけるように自分の経験とつなげながら考えさせ、見通しを持たせるとともに、これからの学習に意欲を持って取り組めるようにする。次に、共存していくために必要な情報を集めさせる。動物に食べられた野菜を観察し、どのような動物に食べられたのか考察させたり、運動場に落ちている動物のフンを調べてどのような動物が学校に来ているのかを予想させたりする。また、動物と共存していくにはどうすればよいか、後に吟味できるように森林ふれあいセンターの方などに聞き取りを行い、多様な意見を収集する活動を行わせる。聞き取りの際には、国語や社会科で学んだことを想起させ、必要なことをメモできるようにする。次に、西土佐小学校や西土佐地域を守っていくために何ができるのか、情報を整理しながら考えさせる。また、まとめの段階で活用するために、調べたことを算数や理科と結び付けて図や表に整理させる。情報を整理することで人間と動物が共存していくことの課題に気付かせ、どのような方策を行えば効果的なのか、どの情報が必要かを考えさせ、動物たちが山から下りてこなくても生きていけるような方策を実行させる。

小単元2では、小単元1で学習したことをもとに自分たちが実行したことを作文、絵、新聞などにまとめて伝える。また、見えてきた課題をもとに、西土佐地域の環境問題に着目させ、探究させていく。まず、小単元1で見えてきた課題を出し合い、学習の見通しを持たせる。課題として、動物のすみかとなる山の森林伐採や里山が使われなくなって動物が住みにくい環境になっていることなどが出てくると考えられる。その課題をもとに、自分たちで解決策を考え、森林ふれあいセンターの方や地域の方などから情報収集をさせる。得た情報をもとに、再度自分たちにできることを吟味し、実行させる。最後に、自分たちが実行したことを振り返り、まとめる活動を通して、単元全体の学習に達成感を持たせられるようにする。

3 単元の見目

西土佐に住む動物との関わり方を考える活動を通して、豊かな自然環境の中に住む動物たちがいる西土佐の良さや地域を守る人々の思いに気付くとともに、動物と仲良くするために自分たちにできることを考え、地域に進んで関わるができるようになる。

4 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①方策を調べる活動や、地域の人との交流の中で動物について理解するとともに、動物から地域を守ろうとする人々がいることを知り、その対策を伝えようとする人々の思いや考えに気付いている。</p> <p>②方策について調べるために、森林ふれあいセンターの方など多様な人から情報を収集する計画を立て、聞き取りを実施している。</p> <p>③人間と動物が共生していることの理解は、自然環境、人々の動物への関わり方、そこに住む動物との関係を探求的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①動物と人間の関わり方について知らないことがあることに気づき、それらを調べるための計画を立てている。</p> <p>②動物と人間の関わり方について知るために、必要な情報や知りたい情報は何かを意識しながら、多様な情報を収集したり、整理したりしている。</p> <p>③共存する方法を伝えるために、調べたことを比較したり関連付けたりして、根拠をはっきりさせて伝える内容や方法を考えている。</p> <p>④動物と人間が共存していくことについて、調べたことをもとに実行することができている。</p>	<p>①動物と人間の関わり方について聞き取りを通して得た知識や、自分とは違う友だちの考えを活かしながら、協働して課題を解決しようとしている。</p> <p>②調べる活動や地域との関わりの中で、小学校や地域を守るために自分がしたいこと、できることを見つけようとしている。</p> <p>③動物と人間の共存のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。</p>

5 指導と評価の計画 (全 22 時間 本時 17/22)

次	時	ねらい (○) と学習活動 (・)	評価の重点			評価方法
			知	思	態	
一 課題の設定	1 3	<p>○植物を育てる際に感じた課題を伝え合う。</p> <p>・野菜が動物に食べられたことなどの問題を友達と伝え合う。</p> <p>・野菜が食べられないようにするには、どうすれば良いのか考える。</p>		①		<p>・発言</p> <p>・ワークシート</p>
二 情報の収集	4 13	<p>○なぜ、動物が山から下りてきているのか考える。</p> <p>・動物たちと自然環境に着目して考える。</p> <p>○運動場に落ちている動物のフンを調べる。</p> <p>・フンの数や形・色・大きさに着目して調べる。</p> <p>○動物に野菜を食べられないようにする方法や動物と仲良く暮らす方法を考える。</p> <p>・どのような動物が学校に来ているか考え、その動物に合わせた方法を考える。</p> <p>○自分たちが考えた解決策を実行する。</p> <p>・かかし、エサ場、トイレを作って設置する。</p> <p>○森林ふれあいセンターの方に聞き取りをする。</p> <p>・森林ふれあいセンターの方に聞くことを明確にする。</p> <p>・シカなどの動物が人里に降りてきている理由などを尋ねる。</p> <p>・動物と仲良く暮らしてしていくための方策を知る。</p> <p>・森林ふれあいセンターの方の思いに触れる。</p>	① ②	②	②	<p>・発言</p> <p>・ワークシート</p> <p>・行動</p> <p>・振り返り</p>

三 整理・分析	1 4) 1 7	○森林ふれあいセンターの方に聞き取りした情報や、自分たちがやった解決策を整理し、自分たちにできることを考える。 ・森林ふれあいセンターの方に聞き取りした情報を付箋などに書き出す。 ・自分たちの方策や森林ふれあいセンターの方に聞いたことを整理し、自分たちにできることを考える。 (本時)	③	③	① ③	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り ・模造紙 ・ホワイトボード
四 まとめ・表	1 8) 2 2	○自分たちで考えた方法を実行する。 ・動物と人間が仲良く暮らしていくための方策を実行する。		④	②	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り

6 本時の指導

本時の目標	森林ふれあいセンターの方から得た情報、意見や自分たちが実行した解決策の結果を基に、自分たちにできることを考えることができる。	
本時の評価規準	情報や意見、これまでの解決策の結果を整理・分析し、自分たちにできることを考えてまとめている。【思】	
準備物	ワークシート、模造紙、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、	
学習の展開		
学習活動	意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 前時までの学習を振り返る。 前時にまとめた模造紙を使って、ふれあい森林センターの方から得た情報を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 動物たちは木の皮、実、草などをよく食べる。 動物たちは山に餌がないので、下りてくる。 餌がないのは、シカが増えすぎていることや、杉やヒノキが食べられないようにされていることが原因。 山には、動物が食べるものが減ってきたから、学校や地域に来ている。 	
2. 自分たちが実行した解決策の結果を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> えさ場のえさは食べられていたので、動物が来ていることは分かっていたけど、足りたかな、おいしかったかな。 トイレにはフンがなかったので、動物はトイレでしないんだね。効果はなかった。 運動場のフンが減っていたから、シカはあまり来なかったのかな。かかしは、シカには効果があったのかもしれない。でもウサギは来ていたね。 	
3. 本時の課題を確認する。		
自分たちにできることを考えよう！リベンジ！		
4. 自分たちが整理した、聞いたことや結果を基に、自分たちにできることを考え、発表する。 (個人思考→グループで話し合う→全体共有)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの野菜が食べられないように、ネットを張ればいい。 ネットを張るなら、自分たちだけでは難しいから、森林ふれあいセンターの方に手伝ってもらえるのかな。 クヌギを植えれば、シカのえさ 	<ul style="list-style-type: none"> 森林ふれあいセンターの方から得た情報、意見や自分たちが実行した解決策の結果を基に、自分たちにできることを考えている。 【発言・ホワイトボー

	<p>が増えるから植林したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植林は自分たちだけで勝手にはできないから、もしするなら森林ふれあいセンターの方をお願いをしないとイケないね。 ・今までのえさ場のえさは、野菜だったけれど、森林ふれあいセンターの方の言うように牧草が多いえさ場にしてはどうか。 ・かかしを作ったけれど、ウサギにはあまり効果がなかったから、ウサギに見えるように小さいかかしを増やすのはどうだろう。 	ド】
<p>5. 本時の振り返りをして、次時へ の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動物と人間が仲良く暮らしていくためにもっといい方法があるかもしれないから、これからも考えていきたい。 ・次の時間は今日出た意見の中からどれを実行するか考えていきたい。 	

7 板書計画

